



Matsumoto Minori

ここにも、一つの物語。

エコツアー日記

地域コーディネーター松本美乃里のエコツアーネット活動報告・最終話

本年度、エコツーリズム推進事業の一員として、さまざまな活動を展開した美乃里さん。期間満了し、4月からは富士宮市でホールアース自然学校の研修生としてさらに勉強に励むと言う。「今後も本町のイベントなどに関わっていきたい」と意気込む美乃里さんが贈るエコツアー日記・感謝の最終話。

私は川根本町が大好きになりました。1年間という短い期間でしたが、この素敵な町で仕事ができたと、個性あふれる魅力的な人たちに会えたこと、そして充実した日々を笑顔で過ごせたことに心から感謝しています。エコツーリズムの活動を応援して下さった皆さんのご協力のおかげです。初めての土地で、知り合いが一人もいない中で、期待と不安が入り混じっていた昨年4月。それから一年間、川根本町エコツーリズムネットワークの皆さんをはじめ、多くの人と触れ合い、この町の自然の素晴らしさ、人の魅力、そして観光資源を活用していく可能性を感じました。本町の魅力をもっと多くの町内外の人に伝えたい、盛り上げていきたい、将来的にこの町の役に立てる仕事がしたいと、より強く思うようにもなりました。私はここに来る前の5年間、埼玉県で地域情報誌の仕事をしていました。広報やPRの大切さを強く感じています。どんなに良いイベントが企画されても、うまくPRできなければ人は集まりません。人が集まらなければイベントは成功したとはいえ、そこに関わる人たちのやる気もなくなってしまおうという悪循環になります。そのためこの一年間は、本町の魅力をより多くの人にPRしていくことに力を

入れました。エコツアーの体験イベントを紹介するHP「川根本町マウンテンパークインフォメーション」では写真を増やし、文章も分かりやすくしました。また参加者を募集するチラシは、手にとって読んでもらえるように工夫して、道の駅や店舗などに置いてもらうため積極的に働きかけました。また活動を紹介するブログ『川根本町エコツアー日記』は、町内で催されるさまざまな行事を、できるだけ自分の言葉で表現し、より多くの人に見てもらえるよう意識しました。「広報かわねほんちょう」にも私の記事を毎月連載したことで、少しずつ認知度も高まってきているように感じています。本年度、エコツーリズムネットワークが主催する体験イベントは25回を数え、参加者数は350人超と前年度に比べ倍増しました。PR(広報)活動に力を入れたことで、興味を持ち足を運んでくれる人が増えたのではと思います。**私**の大好きな言葉に「思うだけ、考えるだけ、語るだけ、祈るだけではなく動くこと。動けば変わる」という言葉があります。本町でも何かをしたいと思っている人がたくさんいると思いますが、これからは「実際に自ら動く人」が求められる時代です。動くことで、必ず変わります。私自身もこの一年間で、それを実感しました。

私個人としても、ブログ、フェイスブック、ミクシィ、ロコミを通して、多くの人に川根の魅力伝える努力をしています。実際に、この1年間で30人以上の友達や仲間を連れてきました。自称川根本町の観光大使?として、大好きなこの町を紹介し、そのうち13人は、既に本町のリピーターです。皆さん、この町に自信を持ってください。ここには自然資源、観光資源、人的資源がいっぱいあります。それだけ貴重な町に皆さんは住んでいるのです。それらを活かすことで、より多くの方がこの町を訪れ、住みたいという人が増える可能性が十分にあります。**川**根本町は私にとって第二の故郷になりました。この1年で町への愛着が深まり、今は「この町の魅力を活かし、効果的にPRするためにも、私自身が自然のことやまちづくりについてもっと勉強し、自信につなげたい。いずれはまた、本町のまちづくりに携わりたい」と強く思っています。4月以降、休日には本町に来ているイベントに参加したり、地域の活動に協力したり、川根女子部の一員として活動を盛り上げながら、今後も本町と強く関わっていききたいです。どこかで見かけた際には、気軽に声をかけてください。今後も「川根のみのりん」をよろしくお願いいたします。



故 勝山守正さん受章

平成23年11月30日に御逝去された元中川根町議会議員の勝山守正さんに旭日単光章が授与され、2月22日、ご家族に伝達されました。勝山さんは32歳の若さで収入役に奉職し、8年間にわたり重責を全うしました。昭和52年2月には中川根町議会議員に初当選。収入役としての豊富な行政経験やたぐいまれなる実行力と決断力で町政に全力を注ぎ、地方自治伸展の向上に努められました。森林整備の必要性を強く訴え、将来を見据えた林業振興の推進に尽力された功績が認められ、今回の受章となりました。



茶作りの夢や希望を語り合う「お茶みらい座談会」は2月18日、フォーレなかかわね茶茗館で開かれ、町内外から約60人が参加しました。ゲストの土屋鉄郎さん、高田恵夫さん、神東美希さんを囲んで進行した座談会。土屋さんと高田さんはお茶作りにかける情熱を、美希さんは協力隊員として1年過ごした本町のイメージを話しました。真剣に聞き入る参加者からは、共感のため息が漏れ、さまざまな意見が飛び出しました。



水川農事研究会の一員として先輩に教わりながら茶作りに励んできた。古来から受け継がれる川根本町の川根茶を追求し、若い世代に伝えたい。自分たちが住んでいて楽しいと思える町にしたい。今まで出会った人、経験は私の宝物。若い人を巻き込み、できることを考えていきたい。お茶のことを知るほかに、この世界にのめり込んだ。ここだけの自然環境を生かして、培ってきた技術が、今の川根茶産地を創り上げている。

お茶の町の未来を語り合おう

茶茗館で「お茶みらい座談会」開催



町の夢や希望、課題などを語り合った座談会。

守ろう水源、伝えよう長島ダム10周年を迎えた長島ダムが記念イベント

10周年を迎えた長島ダムは3月10日、記念イベントを開催、大井川長島ダム流域連携協議会のシバザクラ植栽の参加者180人を含む約400人が来場しました。メイン会場のふれあい館駐車場では流域の商店が参加して特産品などを販売したほか、ずらりと並んだキッチンカーも人気を集めました。特設ステージでは大道芸、中国雑伎などが会場を沸かせました。今後も水源地域の保全のため、流域の交流を深めていきます。



ダムの側面にはシバザクラが植栽されました。

Topics

川根本町のまちの話題